

三鷹まちづくり総合研究所「第4次基本計画と市民参加のあり方に関する研究会」

(第1回議事録要旨)

日時 平成21年7月29日(水)午後7時～9時

会場 三鷹ネットワーク大学

出席者 中村陽一(座長)、江上渉(座長代行)、濱野周泰、木村忠正、高山由美子、河村孝、河野康之、竹内富士夫

事務局 三鷹市企画経営室、三鷹ネットワーク大学

〈議事要旨〉

(注) この議事録は抄録であり、すべての発言が掲載されているものではありません。

1. 研究所所長挨拶——清原慶子市長

1988年に、この組織の前身となる三鷹市まちづくり研究会が市内の大学の研究員と三鷹市の職員が大変フラットな形で政策研究をする組織としてスタートした。コミュニティや国際交流のあり方など、さまざまなテーマについて研究を行ってきたが、その中で、新基本構想と第3次基本計画の策定に向けて、これからの市民参加のあり方について研究を行った。その検討の経過から生まれたのが1999年～2001年までの全員公募型の「みたか市民プラン21会議」であった。

当時とは状況も変わり、今の時代にあった新しい計画づくりのあり方の検討が必要であると考えられる。また、市長として市民の信託を選挙で得て、市長のマニフェストを次の総合計画にしっかりと反映をさせ改定を図っていくという問題意識もある。こうしたことを踏まえたうえで、より一層、市民に信頼される計画の形というものを、改めて検討していただきたい。さらなる工夫と新鮮なあり方について、前例にとらわれることなく、自由闊達に議論していただきたい。

2. 座長挨拶——中村陽一座長

70年代後半、学生として地方自治や市民参加の議論のなかで、三鷹市の大変先進的な行政を知った。その後、1990年ごろに、直接、この三鷹市の市民参加を推進している市民や市の職員と勉強する機会を得た。そうした中で、やはり、三鷹市の積み上げてきたものは大きいと思う。それだけに、今回の研究会での議論や大役には重い責任を感じている。

今回のテーマである市民参加は、まさに21世紀のキーワードとして重要なものである。大きく言えば、市民社会に向けて、地域がどういうふうに進んでいくのかという中心的なテーマだと考える。三鷹市がトップランナーとして、逆に、引き受けるべき課題と責務は大きい。

また、まちづくり総合研究所の今後の役割や機能を占うものになるという点も意識しつつ、地域にベースを置きながらさまざまな研究機関の協力体制の下に進められている三鷹ネットワーク大学のなかで、この三鷹まちづくり総合研究所が展開されることにも意味を感じている。短期集中型の研究会ではあるが、後から振り返って有意義な成果があったと思われるよう、何か次につなが

る動きにしていきたい。

3. 研究員自己紹介（略）

4. 三鷹まちづくり総合研究所について——竹内研究員及び三鷹ネットワーク大学より説明（略）
（配布資料の説明）

5. 第4次基本計画策定及び個別計画改定に関する状況と課題について
事務局 企画経営室より説明（配布資料の説明）

○江上座長代行

マニフェストと市民参加の成果が相反した場合は、どのように整合を図るのか。

○河村研究員

その整合の図り方も議論していただきたい。行政への市民参加だけではなく、政治への市民参加というものが、もっと重要視されるべきだろうと思っている。その意味で、首長のマニフェストの反映とともに、議会の意見を反映させるというも重要な要素となると思う。

○中村座長

市民の中にも色々な意見があり、現在進んでいる方向についても多様な意見がある。それらも含めて、次なる第4次基本計画と市民参加のあり方をどうするのかについて考え方を議論したい。

○木村研究員

選挙と関係づけて、12年というスパンを考えられているということだが、一つの考え方は、選挙でマニフェストが決まると、それに応じて翌年度から基本計画が始まるような考え方もあるのではないか。資料による、選挙があった年度から始まるようになっているが、どういうことか。

○河村研究員

通常、予算でも9割は経常経費、1割が新しい政策的・投資的経費である。選挙の当該年度は、ある程度継続性を維持せざるをえない。前年度から始めている基礎的なものに自分の政策をどのように入れ込むかが大きな課題となる。

○濱野研究員

27年度までの基本構想の上に、第3次基本計画と第4次基本計画が乗っているが、第3次基本計画に内容についての市民満足度をどのように確認をするのか。

○企画経営室

三鷹市では自治体経営白書を毎年発行している。この中で基本計画の達成状況というものをまとめて示している。また、計画の策定や改定では市民満足度も含めた市民意向調査も実施しており、この調査結果や白書などの資料も活用して、それぞれの市民会議や審議会等で、積み残された課題や次の新たな課題などを検討して提言していただいている

○中村座長

達成状況の話に加えて、事業の評価に関しても説明してもらいたい。

○企画経営室

三鷹市の事業評価は、内部評価のシステムである。基本計画の主要事業を中心として評価を行う

事業を選定し、事前評価、中間評価、事後評価と3回の進行管理と評価を行い、その結果を自治体経営白書の資料編ですべて公表している。

○中村座長

その他にアンケート調査の類のものは何かあるか。

○河野研究員

基本計画の中では必ず、事前の市民アンケートを実施しているが、一定の信頼のおける外部評価、例えば日本経済新聞社のランキングでは、行政革新度で毎回全国第1位を、前回は市民サービス度でも第1位の評価を得た。こうした外部機関の評価は非常に信頼度が高いと思っている。

○竹内研究員

そのほか、基本計画の下にある個別計画のレベルでは、審議会等に進捗状況を逐一報告して議論をいただくなど、特に厳しいチェックを行っている。

6 今後の検討内容及び進め方について

企画経営室より説明（配布資料の説明）

○中村座長

これについては研究所の皆さんの御意見を伺っていきたい。今回は、今日の大きなフレームの説明に加えて、詳しい各論の説明をいただく必要がある。次回以降は特に学識の研究員の皆さんに、それぞれ専門分野について分担していただきながらやりたい。それから市民として関わってこられた方や役割を果たしておられる方にもゲスト的に来ていただいて意見交換を行いたい。

○木村研究員

基本的なことだが、この研究会の名称が「第4次基本計画と市民参加のあり方に関する研究会」で、第4次基本計画に「おける」となっていないのには、何か意味があるのか。

○河村研究員

市民参加のあり方だけではなく、計画の実際の政策の中身や期間、計画の作り方などについても議論いただきたいと考えている。

○高山研究員

自分の中に概念としてある市民参加やそのあり方がスタートでいいのかという不安がある。そういう意味では、余り理念的な部分に時間をかけるわけにはいかないとは思いますが、そもそも市民参加というものが何なのかについて議論が積み重ねられればいいと考える。

○中村座長

江上先生が中心となって三鷹の調査を行い、都市における市民協働というテーマで報告書を出されている。今回はその中間報告に新たなことを付け加えて報告していただくことができないか。

○江上座長代行

了解した。